

琉球大学学術リポジトリ

農家と木工 (1)

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岸本, 幸安 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/19558

尚第1図で実線は調査結果のものであり、点線は実線を基にしての大体そうなるのではないかと予想曲線であります。…(続く)

(註) 右に關する學術論は本學部発行の研究報告第一号に詳しく載つています。

(砂 川 季 昭)

農家と木工(1)

まえがき

農村問題として農家の改良は、重要なものである。元來農村住宅は消費生活の場所であると共に、更に生産活動の場所を兼ねているのである。即ち、農民の休息消費と農業生産とを同一の場所で行ふ二つの性格を持つてゐる。

近時作業の機械化に伴ひ作業は住宅から納屋または作業場に移行しつゝあるが、今なお住宅で行われているものが多い。

元來自給自足を本筋とする農家経済において、農民の消費生活に必要な物資の大部分は自家製であつて、これがため農村住宅は自給物資及び製品の格納のために相当の面積(空間)と設備を必要とするようになった。

更に農業労働以外の衛生上等の諸要求も又建物を支配する。

例えば、農村住宅における汚物処理所は自給肥料の貯溜所としての役割をも持つので比較的広い場所を要し、また炊事場から出る残渣物や汚水は家畜用及び肥料をうすめる目的を以て利用するため広い容積を必要とするなど、農村の各部の機能を益々複雑化せしめている。

以上は農村住宅の一つの特性であるが、一面農村住宅は封建的秩序の下に設計された住い方を規定してきたので、私生活よりも公生活の場合を考慮して造られた。住宅建設に投下した資

本は挽回するに長年月を要するので、根本的改良または建直しは経済的に非常に困難を伴うのである。従つて農業建築や設備問題を取扱うに當り、今まで如何なる理由によつて改善されずきたか、その原因を追求してみると、農家の経済力の貧困のためか改善の意欲のないためか、或は封建的な習慣のためか、その理由を明確にすると共に、消費生産面からも合理的な改善の策を立てねばならない。

以上の生産と消費の両面の理由から農村住宅が如何にあるべきかということを理解すると共に、簡単な修理や小屋の建築または家具、農用器具等の如きものは自分で工作しうる能力をだれでも持つことが必要ではないか。

以下農家に必要な木工関係の基礎的知識と技術について述べ木工に關心をもちたい農家の方々の御参考を供したいと思ふ。

1 木工 工具 鋸

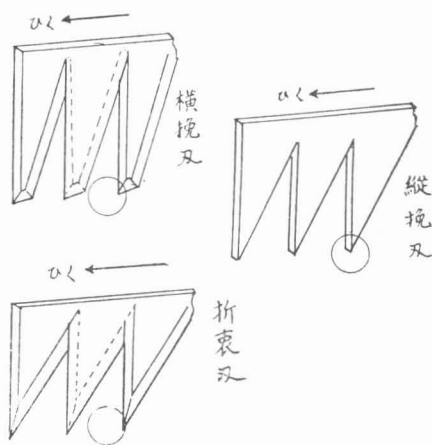
本作業には最低限度に必要な工具を整備し、常に研磨された刃物を使うことが仕事を正確・迅速・美的に仕上げるものである。そのためには刃物に対する或程度知識と技術が必要である。

鋸は木工中でも最も重要なものであつて、種類は縦挽・縦横・縦横折衷の三つに分けられる。形状・用途の上から面刃鋸・畔挽・廻挽・竹挽・金切・木挽・植木・帯鋸・丸鋸等、近頃小形のポータブル丸鋸などがあるが、何れも齒型の構造は次の二種類に大別することができる。

(A) 縦挽は木材を縦断するためせん維をかき取る如く刃先がのみ状に作られる。

(B) 横挽はせん維を切断する作用をなすもので刃先は刃出し小刀の刃状の齒型である。

多くの農家で使用されている荒仕事用の(山鋸またはガガリ)ものは縦挽齒型に横挽齒を折衷させたものである。また一般に用いられる面刃鋸と称せられる鋸身の両背に縦挽と横挽の二つが仕込まれて使用に際し重宝なものである。



未熟練者の鋸断作業でよく見受けられることは、この両用の使いわけを混同したり、又は刃先の磨減した切味のよくない鋸を無理な力を加えて使用している事である。これは鋸の欠損の原因となるから、早急にめたてやすりと称する鋸の齒並によく合つた研磨具によつて目立するのであるが、更にめぶりをせねばならぬ。めぶりととは二つの刃先を交互に鋸身の厚つさの二分の程度左右に同等にふり分けることであつて、その度合は使われる材の硬軟によつて異なるものである。かくの如くめぶりにすることによつて鋸断による鋸屑の排出をよくし、且つ鋸と木材間の摩擦を円滑ならしめ鋸挽を容易にする。

一般家庭、学校に備えてある面刃鋸は鋸身の長さ約九寸(これを九寸面刃鋸といふ) 価額は一五〇円―二五〇円程度のもので、鋸身の柄に近い腰という部分が厚く且つ強いのが使用に便利である。また鋸身の鋼板はねぢれがなく刃の軟硬も適度なものでなくてはならぬ。硬質であれば刃の欠損多く、軟質に過ぐれば刃先がはやく磨減して切味のよくないものである。

不合理な自己流の鋸使用法は鋸を甚だしく破損しめたる職の修理に依頼せねばならぬ程度のものである。故に鋸断作業の合理的・基本的・使用法に習熟することは工具の破損を防止し、

工作技術の進歩に好結果をきたすのである。

鋸断の姿勢は右手で柄の端を握り切味にまかせて無理なくひき、殊に鋸身を前方に押し出すときは材を挽き切るのではなく単に鋸身を前方に送るのであるから静かに送ればよい。

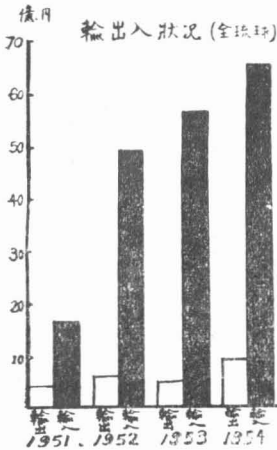
木材の切断に切味のよいのは、材面と鋸齒線とが約三〇度に傾斜した挽き込みの場合であつて垂直に近い持ち方は鋸の破損が多い。

正しい工具の取扱いは、工具を適所に使用して工具の機能を十分に發揮せしめることである。しばしば見受けられることであるが、両刃鋸で太い丸太を切つたりすることは両刃鋸の用途を誤れるもので、かくの如き不合理な使用は工具保存の上からも厳にいつしまねばならない。(続く) (岸 本 幸 安)

農産物輸入に就いて

(その一)

戦争前から神廻はよく輸入国(売り出す物よりも買入れる物の量が遥かに多い)と云はれていますが大体何ういう様な物を多く買入れていくかをこちらで述べて見たいと思ひます。先づ最初に全体の輸入と輸出の關係から調べてみましょう。



第一表 輸出入状況 (全球球)
単位 (1,000,000円)

年次	1951	1952	1953	1954	1955
輸入高	1,657	4,915	5,639	6,522	2,129
輸出高	412	600	472	927	563
パーセント	25%	12%	8%	14%	26%

右の図は全球の戦後(一九五一年から一九五五年四月迄)の輸出入の状況を示したものです。この図に示されていますように輸出は毎年多くなつていきます。(五三年には少なくなつていますが、それから五五年は一月から四月迄の分ですからその一年の統計がまとまつたら五四年より多くなるのは確かです)然し輸出の増加よりも輸入の増加は非常に大きいものです。そしてこちらで直ぐ気がつくのは輸出額は輸入額よりも非常に少いという事です。即ち私達の地球は非常に多く物を外国から買つていくが少しの物しか彼等に売つてないという事になつていく訳です。

さて次にこの輸出と輸入の關係を数字で表わしてみましよう。上の表に示されている様に地球は買入れるものの約四分の一(二五%)しか売り出していません。一九五三年には輸入の十分の一しか輸出していません。それでは次に戦前は輸出は輸入のどれ位の割合を占めていたかに就いて一寸述べてみましょう。次の第一表は昭和十二年から十五年迄

の輸出入の關係を示したものです。その表に依りますと昭和十四年及び十五年には輸入の九十パーセント以上も輸出していた訳です。言葉を変えていいますと買った量は殆んど全部売つた量で補つていた事になる訳です。第一表で示した様に戦後は売るものが非常に少くなり反対に買う物が非常に多くなつていきます。

第二表 輸出入状況 (昭和12-15年)
単位当時の日本円 (1,000円)

	昭和12年	13年	14年	15年
輸入高	28,407	29,322	34,602	40,036
輸出高	21,453	24,665	31,950	37,650
パーセント	75%	84%	92%	94%

きこわれ砂糖が全輸出額に占める割合は僅か五八パーセント(一九五四年)に下つていきます。

戦後は戦前の米と材料の主なる輸入品の外に多量の復興建築資材を輸入せねばならずそれにかたて加わへて農耕地が少なくなり又海外からの帰還者と急激に増えた人口のために多量の食糧を輸入せねばならなくなつて一九五四年に於いては六十五億円の物を輸入しているのです。

さてどの様な食料品がどの程度毎年輸入されているかに就いては次の号に述べてみたいと思ひます。(続く)

(嘉 陽 宗 隆)



何故この様な片断的な貿易状態になつて了つたでしょうか? 御承知の通り戦前地球では毎年多量の異糖及びさらめ(分密糖)がつくられ、そしてそれ等を輸出していたのです。昭和十五年の統計に依りますと全輸出額の九八パーセントはこれらの砂糖に依つて占められていたのです。それが戦後は製糖工場が叩